

もしも、のために知っていただきたいこと

- 定期の予防接種による副反応のために、医療機関で治療が必要になったり、生活が不自由になったりしたとき(健康被害)は、法律に定められた救済制度(健康被害救済制度)があります。
 - 制度の利用を申しこむときは、その接種を受けた時に住民登録していた市町村にご相談ください。
- ※詳細は、厚生労働省HPをごらんください。「予防接種 救済制度」で検索できます。

シリーズのご紹介

このリーフレットは、法律です
 定められている定期接種の
 うちMRワクチンを「きょう」
 接種するお子さんと、その
 保護者のみなさまのために、
 かならず知っておいてい
 だきたい内容をまとめたもので
 す。そのほかの定期接種につ
 いてまとめたシリーズと、あ
 わせてお読みください。



BCG
ワクチンのはなし



MR
ワクチンのはなし



日本脳炎
ワクチンのはなし



水痘
ワクチンのはなし



DPT-IPV-Hib
ワクチンのはなし



Hib
ワクチンのはなし



小児の肺炎球菌
ワクチンのはなし



DPT-IPV
ワクチンのはなし

各リーフレットは、厚生労働省HPおよび予防接種リサーチセンターHPからダウンロードできます。「予防接種 リーフレット」で検索できます。

くわしくは
 「予防接種と子どもの健康」
 (発行：公益財団法人予防接種リサーチセンター)

をごらん
 ください。



医療機関名

きょう

きょう 予防接種をうける
 お子さんと、保護者のみなさまへ

MR(麻しん・風しん混合)ワクチンのはなし



の ワ ク チ ン

きょうの予防接種を安心してうけていただくために

MRワクチンのはなし

父親の協力も大切なんだな!



MRワクチンって?

- ◆麻しん(M)・風しん(R)は、それぞれのウイルスを口や鼻などから吸いこむことで感染する病気です。うつりやすい病気で、一人がかかると、家族やまわりの人たちに広がってしまうこともあります。
- ◆麻しん(はしか)にかかると、熱やせき、鼻水がでたり、ぶつぶつがでたりします。まれですが、重くなると命にかかわることもあります。
- ◆風しんにかかると熱がでたり、ぶつぶつがでたりします。
- ◆MRワクチンを接種することで、体のなかに麻しん・風しんへの抵抗力(免疫)ができます。
- ◆このワクチンは1歳になってからと、小学校入学前1年間に接種します。

- 妊娠中に麻しんにかかると、流産や早産などの問題をおこすことがあります。
- 妊娠中に風しんにかかると、赤ちゃんに感染し、耳が聞こえにくい、目が見えにくい、生まれつき心臓に病気がある、発達がゆっくりしているなど「先天性風しん症候群」にかかってしまうことがあります。
- 予防接種をうけても、お子さんの体質や体調によって完全な免疫ができないことがあります。でも予防接種をうけておくと、たとえかかっても、その多くは軽くてすみます。

- 小さなお子さんは動かないように、しっかりと抱っこしてあげてください。保護者のみなさまがリラックスすると、お子さんも安心します。



- 注射で泣くお子さんは多いもの。大切な予防接種が苦手にならないように、がんばったことをほめてあげるなど、保護者のみなさまの工夫がカギです。

3

接種後の注意

- 接種直後、30分くらいは接種後の体調変化にすぐ対応してもらえよう、医療機関のなかでお子さんの様子を見てあげるか、すぐに医師と連絡がとれるようにしてください。この間に急な体の変化がおこることがあります。
- 帰宅後もはげしく体を動かすことはさげさせ、接種箇所をきれいに保ってあげましょう。
- おふろには入れてもかまいませんが、接種箇所をこすらないでください。

予防接種をうけたことは将来、その病気に対して免疫があることを示す大事な記録となります。母子健康手帳は大切にとっておきましょう。

2

ワクチンを接種するときのポイント

1

当日はココをチェック

- お子さんの体調はよいか、熱があったり、ふだんと変わったところはないか確認しましょう。
- 心配なことがあるときは、医師に相談しましょう。質問をメモしておくとなんか伝わりやすくなります。
- 母子健康手帳はかならずもっていきましょう。



おこるかもしれない体の変化(副反応)

- ◆MRワクチンを接種した後、熱がでたり、ぶつぶつがでたりすることがあります。また、接種箇所が赤くなったり、はれたりすることもあります。

- ◆きわめてまれにアナフィラキシー¹⁾、けいれん^{けいれん}、血小板減少性紫斑病²⁾、脳炎などの重い病気にかかるといわれています。

- 1) アナフィラキシー：急激なアレルギーにより、じんましんがでたり呼吸が苦しくなったりします。
- 2) 血小板減少性紫斑病：かさぶたをつくる働き血小板の数が少なくなって、出血しやすくなってしまいます。皮膚の下で出血して青あざがでたり、歯ぐきから血がでたりします。

- 予防接種をうけた後、気になる症状や体調の変化があらわれたら、すぐ医師に相談してください。

